

『学習プログラミング』1962年8月(学習オートメーション研究会)

ほんものを育てる努力を

矢 口 新

(学習オートメーション研究会会長)

このごろプログラム学習が急に注目を浴びるようになりました。まず第一に、マスコミが盛んにとりあげ出しました。次にいままであったワーク・ブックとか、ドリル・ブックというのがプログラム学習という名前にかわったことです。これらのことを見て、多くの人はブームが来たといっています。お互いにプログラム学習について真剣な研究をするわれわれには、大いに考えさせられるものがあるようです。

外国のマネではダメ

第一にどうしてマスコミがこんなに注目したのでしょうか。これは私は、世界的な傾向だと思っています。日本だけのことはありません。日本のマスコミが、こういう問題を取り上げるのは、むしろネタは、海のあちらの情報によるものです。あちらの一般雑誌にとりあげているのを見て、日本ではどうかという取扱いをしているのです。

プログラム学習が世界的な問題

だということ、私たちとしては、十分自覚しなければならぬ問題です。近代教育が何世紀の間やってきた、いつせい授業に対して一つの反省が起こって来ているということ、私どもはこのことを単なる流行に終わらせるような考え方で取り扱ってはならないと思います。何世紀もの伝統に対して新しく興った方式を提出して、今後何世紀もの伝統をつくる第一歩を踏み出しているのだと感ずる次第です。

プログラム学習の世界的な興隆のきざしは、今の所まだ端緒にすぎません。どこの国でもまだこうだというはつきりしたものを持つているわけではありません。いやそれどころか、これから研究しようという段階です。そういう点では日本での研究もおなじですが、これまでであった多くの海外思潮の輸入のように、向こうのものを試験済みだからというので受け入れるのは全くちがっています。私たちも全く独創的に道を切り開かなくてはならぬ所にいるのです。

多くの人々の協力によってこれがなされることがたいせつでしょう。

ワークブック屋に まかせていてよいか

協力といえ、ある意味でこのプログラムに対する協力はすばらしいものがあります。なんでもかんでもプログラムというわけで、ワーク・ブックやドリル・ブックなどがみなプログラムに衣がえしました。二年も三年も前から営々として研究してりつぱなものだということになっております。りつぱな先生方が監修になっておられるのですから、それにまちがいありません。私どもがまだ十分考えていなかった時代にすでに、これに目をつけて研究されてきたワーク・ブック屋さん、改めて敬意を表さなければならぬとおもっております。

しかし私は、プログラム学習について一つだけ忘れてはならないことがあると思います。それはプログラム学習は、授業の問題であって、決して子どものワーク・ブ

ツクなどの問題ではないということです。私もこれまでやってきたいっせいの授業の効率のことを問題にしているのです。決して子どもの家庭学習のことを問題にしているのではないのです。その意味では、ワーク・ブック屋さんにお株をとられたのは、教師としては決して名誉あることとは言えないようです。大いに反省をしなければいけないと思います。

おかあさん方の問題だろうか

私も教育者の仲間には、まだあれは一種の流行だとして頭から受けつけない人も多くいます。無理もない所があると思いますが、一方には、ワーク・ブック屋さんを通じて、おかあさん方まで熱心にこの問題について考えようとしていて、何か狂っているという感じがいたします。

そういえば、おかあさん方は最近教育に熱を入れたようです。とくに水道方式などという算数のやり方がお母さんの間に関心をもたれているようです。お母さん方

が教育のことを熱心に考えられるのは結構なことですが、教師のなすべきことにまでいろいろ口ばしを入れるようになってきたのは、決してよいことではありません。こどものしつけとか、家庭でのくらしとか、そういったことがおろそかになっていて、水道方式に口角泡をとばしているのは決して健全ではありません。これがマスコミにあおられたお母さんの姿だとしたら、悲しいことです、

問題の根は深い

そういえば、コマーシャリズムの売りこみは大したものです。「算数に強くなる本」「おかあさんの算数教室」などというわけで、算数に弱い子は多いものですから、おかあさん方の心は一挙に傾きます。すつかりシャクフクされたおかあさんが多いようです。そのうちに水道方式から参議院議員が当選するかもしれません。

しかし算数に弱い子どもを生み出している現代の授業をもっと反省してみる必要があるはずまいか、

というように考えたいものです。みんな、とくに教育の仕事をする者どうしが考えてみる必要がありますでしょう。

自分の子どもの算数が強くなることだけを考えているおかあさん方に、算数の教育方法論議をまかせるようになったら、教育者の恥と思わねばなりません。

コマーシャリズムは、なさけ、ようしやもなくもうけさえすればよいので、なすべきこととなすべからざることとのけじめをつけないのが得意のようです。やはり教育の専門家である皆さんが、正しい教育に目を光らせていただきたいと思います。

エネルギーをどこに向けるか

私は、近ごろ、本物をつくりあげるといことが、いかにむずかしいかということをしみじみと感じております。昔だれかが「金もいらぬ、名もいらぬ、命もいらぬ」と言ったと申しますが、やはりそういうものから本物が出てくるのではないかということを感じてお

ります。理論を言うはやさしく、これを現実に実現しようとする、さまざまな条件がはいつてきます。その条件を克服して、理論を正しく実現するには、通り一ぺんの努力ではむずかしいと感じています。理想に向かって協力する人々の精神の強さがこれを決定するようです。それはもう民族の精神というものかもしれません。